

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392300071		
法人名	有限会社 サンコーポレーション		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホーム ねこの手		
所在地	愛知県瀬戸市西原町1丁目12番地		
自己評価作成日	平成28年10月10日	評価結果市町村受理日	平成29年4月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外観は、和の雰囲気を感じ、かわら屋根や格子の塀を取り入れ、利用者様に懐かしさを感じて頂けるような造りとなっている。慣れ親しんだ生活の継続、自信(役割)、喜びを感じる暮らしを運営理念とし「その方」にとっての「心地よさ」を目標としている。出来る事は無理のない範囲で自分達でして頂き、職員は見守りながら介護・支援をしている。利用者様どうしの信頼関係を築き、普通の生活が出来るような家庭的な環境を作っている。また医療的な支援が必要な方にも対応しております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosoCd=2392300071-00&PrefCd=23&VersionCd=022

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

かわら屋根に格子の塀を取り入れ、和の雰囲気を持つ施設は、1階が小規模多機能型居宅介護施設、2階にグループホームがある。「慣れ親しんだ生活の継続、自信(役割)、喜びを感じる暮らし」の運営理念に、「その方」にとっての「心地よさ」目指します」を目標に挙げ、職員間で周知徹底し、その人に寄り添った日々の暮らしを大切に、出来るところは出来るだけ見守りの支援に努めている。今年で5回目を迎える事業所の夏祭りは入居者と職員、ボランティア、地域の方々が家族ぐるみで参加されるなど、恒例となり盛大な賑わいを見せている。盆踊りでは地域の方に着付けや踊りの手ほどきを受けるなど、地域との交流を深めている。外出支援では地域の神社や弘法さん参り、雑祭など馴染みの所を訪れて、懐かしい人や場所とのつながりを継続し、支援に努めている。高齢化に伴ない外出支援が困難になっていくことに苦慮している。明るく温かな居間で入居者は、塗り絵やパズルをしたり、職員との会話を楽しんだり、テレビを見てのんびり穏やかに過ごしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かねてビル 2階		
訪問調査日	平成28年11月14日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価 外部	項目	自己評価	外部評価
		実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営			
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	カンファレンス等で確認、話し合いを行っている。個々の利用者がその人らしく、居心地良く過ごせるようミーティングで気づきの報告を行いケアにつなげていく。	理念はホールに掲示し、名札の裏に携帯している。ミーティングやカンファレンス等で振り返り、気づきを共有しながらケアにつなげている。新任教育では理念の理解に力を入れるとともに、年に1回全職員でセルフチェックシートを使用し、理念に添ったケアの実施確認を行い、スキルアップをに努めている。
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	事業所周辺の散歩や近所のスーパーへ買い物に出かけている。夏祭りには地域の方に参加の呼びかけを行い交流を深めている。	町内会に加入しており、地域の情報を回覧板等で入手している。事業所の夏祭りは地域で馴染みとなっており、多くの参加があり賑わいを見せている。ボランティアの方々には屋台の協力を得たり、職員による仮装大会も好評で会場の盛り上がりが見られた。盆踊りでは、地域の方に盆踊りの指導を頂き、楽しく参加したり、職員と近隣の草取りを行うなどして、地域との交流を深めている。中学生の実習指導も受け入れている。
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りを開催し地域の方々や子供たちとの交流を図っている。	
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し市担当者、民生委員、地域の方に利用者の利用状況、委員からの報告、活動状況の報告を行っている。	運営推進会議は入居者家族や地域の代表、民生委員、包括支援センター、行政等が参加して、2か月に1度開催されている。運営に関する報告や情報交換が活発に行われ、出された意見や要望は評議され、早期に実現に向けた取り組みを行うなど、運営やサービス向上に活かす努力をしている。
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議には必ず参加して頂き意見やアドバイスを頂いている。必要時には市役所窓口へ伺って相談、報告等を行っている。	運営推進会議に出席があり、情報交換やアドバイスをもらっている。代行申請や成年後見、生活保護等で市の担当窓口を訪れることが多く、連絡を密に取りあっている。事業所の代表は、市の介護連絡協議会の代表を務めており、協力関係を築いている。市から案内のある研修会には積極的に参加している。
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修を行っている。止むを得ず実施する場合は倫理委員会を開催し検討している。カンファレンスで事例検討等を行い、拘束廃止に向けた取り組みを行っている	拘束をしないケアの実践に向けて、施設内で研修を重ねている。カンファレンス等でも具体的な事例を挙げて話し合い理解を深めるとともに、職員間での周知に努めている。スピーチロック等無意識に行うことがあるが、職員間で注意をしよう環境が出来ており、ケアの質向上に努めている。止むを得ず拘束を実施する場合は倫理委員会を開催し検討している。
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを用いて施設内研修を行い全職員に周知徹底を図っている。身体面の観察と心理的虐待となる不用意な発言がないよう注意を払っている。	

自己評価 実践状況	項目	外部評価	
		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所でも成年後見人制度を利用されている方もおり、職員に対して制度の理解についての研修を行っている。	
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に丁寧に読み上げ、分かりにくい点がないか、不安な点はないか説明、確認を行っている。	
10 (6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の要望や意見は日常の会話の中から聞き取りまたご家族に対しては面会時や行事の時等職員から声をかけさせて頂き意見、要望等お聞きしている。	利用者からは日々のケアの中で意向や希望を聞き、カンファレンス等で話し合いケアに反映させている。家族からは、面会時や家族会、行事の時などに積極的に声掛けをして、意見や要望を聞き、職員間で話し合っ運営に反映させている。写真入りの「ねこの手」通信を季節ごとに発行し、家族に安心を届けている。
11 (7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝のミーティング、夕方のカンファレンス、毎月のカンファレンスにおいて職員一人一人が意見や提案を出し易い環境作りを心がけている。	朝夕のミーティングや月1回のカンファレンスは、意見や提案を言いやすい環境にあり、活発な話し合いや意見交換が行われている。管理者は必要時、職員からの意見を代表に報告し、ケアや運営に反映させている。代表者による個別面談が年に1回あり、直接職員の意見や提案、要望を聞いて運営に反映させている。
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が年1回全職員に対し個別面接を行い意見を聞いている。	
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には新入職職員研修の項目を定め業務の流れや基本的ケアの理解度を確認している。現任職員には自己評価を実施し、自身の振り返りを行い、業務に対し再認識する機会としている。管理者、ケアマネージャー等一部の介護職員は外部の研修に参加し参加できない職員に対し伝達講習を行っている。	
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	瀬戸市介護事業者連絡協議会に参加して研修会や情報交換を行っている。	

自己評価	項目	外部評価	
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネージャーと現場スタッフがご本人と面談し、不安や要望等を傾聴している。日々の様子にも留意し安心した生活が送って頂けるよう努めている。	
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時等に困っていることや不安等を傾聴し、その後の信頼関係が築けるよう努めている。面会時または利用表の確認時に家族と機会を設け入居者様の近況を伝えたり、家族の想いを聞いている	
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の話を傾聴し、状況に合わせたサービス提供が行えるよう努めている。	
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員、入居者が共に食後の片づけや部屋の掃除、おやつ作りを行いお茶の時間を過ごし団らんの間を作っている。	
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には挨拶に伺い近況を報告している。受診、買い物など可能な範囲でご家族に対応をして頂いている。	
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や家族が訪れやすい環境作りや共に外出できる機会が増やせるよう支援している。面会の方が来所し易い、明るい雰囲気作りを心がけている。	本人の生活歴や本人や家族からの情報を得て、本人が大切にしてきた人や場所を知り、支援につながるように努めている。馴染みの友人や家族が訪れやすく、親しみやすい環境作りを工夫したり、外食レクリエーションなど共に外出できる機会を作っている。弘法さん参りやお祭りなど、懐かしい思い出の地域行事には皆で参加している。日々の散歩や買い物で地域のひととの新しい馴染みが出来るよう支援をしている。
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	外出、レクリエーションを通し入居者同士の関わり場を作っている。	

自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	項目		
			自己評価	外部評価	
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同系列の事業所へ移行された方の場合、情報の提供、ご本人、ご家族との関係は継続している。入院された方については介護サマリーにより情報提供を行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23 (9)			○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情などから思いが汲みとれるよう努めている。訴えがある場合は傾聴し検討している。困難な場合も含め、常に利用者の立場に立ち考えることを念頭に置いている。	入居者に寄り添い傾聴し、思いや意向を把握しながら日々の状態を確認し、入居者の立場に立っての支援に努めている。意志の表出の困難な入居者に対しては、介護記録や申し送りを読み、会話や表情、行動から意向をくみ取って対応したり、家族からの情報を参考に本人本位に検討している。
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表の作成。本人、家族との話し合いにより情報提供の場を作る。	
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を観察しケア記録へ記入、状態の把握に努めている。変化など必要なことは、日々の申し送りや申し送りノートに記入し情報共有の徹底を図っている。	
26 (10)			○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状況に応じて、本人、家族を含め担当者会議を開いている。職員の意見を含めた上で利用者がより良く過ごせるような介護計画の作成を行っている。	月1回のカンファレンス時にモニタリングを行っている。6か月毎の見直しを行っているが、状態に応じ随時の見直しも行っている。医師の往診日に担当者会議を実施することにより、家族や医師、看護師、ケアマネジャー、職員が参加して、本人がよりよく過ごせるように現状に即した介護計画作成に努めている。
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的な見直しやミーティング、ケア記録から利用者の状態に変化があった時には本人、家族の意見を取り入れ介護計画を変更している。日々の変化をケア記録に残し職員間で情報を共有、実践し計画の見直しに反映できるようにしている。	
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況に応じて通院介助。家族、本人の希望、要望を面会時に確認している。	

自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアさんにより大正琴や朗読、踊りなど楽しみを提供して頂いている。		
30(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診については原則、家族対応としているが、家族対応が困難な場合は通院介助を行っている。ご家族の希望があれば協力医療機関の医師を主治医とし定期的な往診を実施している。入所以前からのかかり付けの病院、医院がある場合は定期的な通院介助を行っている。	受診については本人や家族の希望を大切に、入居時に確認している。入所前からのかかりつけ医の定期受診は通院介助を行っている。随時の受診は家族対応としているが、困難な場合は付き添い支援をしている。希望により、協力医療機関の医師を主治医としている。2週間に1回の定期往診があり、受診情報は共有ファイルに保存し、申し送りや周知を図りケアにつなげている。施設内に看護師が常勤しており、緊急時の連携等対応が出来るなど、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は利用者一人ひとりの変化を看護師に報告している。看護師は必要時主治医に連絡し、指示を受け速やかな対応をしている。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関	入院時には介護サマリーを作成し入院先に提出している。退院時には看護サマリーを依頼し情報を得ている。		
33(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームでの終末期を希望する場合は看取り介護が出来る体制を取っている。	重度化や終末期に向けた指針やマニュアルが整備されている。入居時に家族や本人に説明をして同意を得ているが、状態が変化した場合早い段階から家族と話し合い意向の確認を行っている。見取りを希望される場合は、家族や医師、看護師、職員間で連携を密に取り、その方にとって安らかな生活が送れるような支援に取り組んでいる。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時及び緊急時対応マニュアルを作成し職員には周知するとともに、消防署員指導のもと救命講習を事業所内で実施している。心肺蘇生法、AEDの取扱い等職員の大半が普通救命講習Ⅰを終了している。		
35(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施しており内1回は消防署立会いのもと避難訓練や消火訓練等を行い助言を受け次回の訓練に役立てている。また消防設備の点検の際、設備の取扱い等の説明を受けている。地域の方に事前に避難訓練について協力体制を築いている。	地震と火事を想定した防災訓練を年2回実施している。内1回は消防署立会いの下で行い、受けた助言やアドバイスは次回の訓練に役立てている。災害時のハザードマップや駆けつける職員の役割手順、おんぶ紐など避難に役立つ物品などをリストアップしながら、鋭意作成中である。避難時は地域の方に入居者の見守りをお願いしている。備蓄は3日程度確保している。	非常災害時には、介護の専門職がおり、炊飯設備もあることから、地域の避難場所として提供できることを検討するとともに、認知がある方を優先的に受け入れることが可能である旨を申し出て、地域の方々に知っていただくことで、地域との繋がりを深めていくことを期待したい。

自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	項目	
		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36 (14)		○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の能力や性格に応じた言葉かけ等対応を行っている。プライバシーや人格保護の勉強会を行っている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が意思表示しやすい関係作りに努めている。自己決定が困難な方には態度や様子から思いを汲みとれるよう努力している。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、体操など一定の時間、ルールは設けているがその時々様子に応じ柔軟な対応を心がけている。共有する時間以外はその方のペースに合わせ支援している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容の支援の必要な方には介助をしている。また希望者には月1回の理美容サービスを受けられるよう支援しています。その他、更衣時の衣類の選択や希望時の衣類の買い物に同行している。
40 (15)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台拭きや下膳を一緒に行う。食事の関心を持って頂けるよう献立をお知らせしたり、利用者様にホワイトボードにメニューを記載して頂き皆様にお知らせできる工夫を行っている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	キザミ、ミキサー食等、個々の嚥下能力に合わせて食事提供を行っている。主食副食別に食事摂取量を記録している。食事時、おやつ時、入浴後の水分補給の他、いつでも飲めるよう声掛けをしている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け、誘導を行っている。義歯洗浄の介助、口腔内の確認等一人ひとりの能力に応じた支援を行っている

自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次ステップに向けて期待したい内容		
			項目	
43 (16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し排泄パターンを把握するよう努める。トイレ誘導、声掛け、見守りなど個々の能力に応じて支援を行っている。	個々の排泄パターンを把握し、様子を見て誘導したり声掛けをしている。自立をしている人にも気配りや見守りで、布パンツの状態が継続できるよう支援をしている。生活の中で運動や水分摂取で便秘予防に努め、必要時は、看護師や主治医と相談し、内服薬併用で排便コントロールを行っている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活の中に体操、散歩等運動を取り入れている。水分補給を行い便秘予防に努めている。主治医の指示の下、内服薬を服用し排便コントロールを行っている。		
45 (17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は午前中に行っている。週2回入浴を実施しているがその方の体調や気分により変更している。個々の能力に応じた方法で入浴して頂いている。	基本的には週2回の入浴であるが利用者が希望したり、汚染があった場合は対応している。寒い季節は浴室を30分前から温めてヒートショック等に対応している。湯の清潔に注意をしたり季節のゆず湯やしょうぶ湯を楽しんだり、入浴をゆっくり楽しめるよう支援している。入浴拒否の方の声掛けの工夫や個々入居者の能力に応じた入浴支援に気配りを行っている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の様子や状態に応じ休息して頂いている。夜間はその方の生活パターンに合わせて入眠したいだいでいる。昼夜逆転にならないよう日中の配慮を行っている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在、服用している内服薬の薬剤情報をファイルに綴じ、全スタッフが内容、用法、用量を確認できるようになっている。副作用や変化については看護師に報告し対応できる体制を取っている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	物品の購入希望がある方は近所のスーパーに職員と共に出かける。		
49 (18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば散歩や買い物に同行している。年に数回ではあるが外食に出掛けている。季節に応じた催しとして地域の秋祭りや瀬戸蔵での雛祭りの見学に出掛けている。花見にはご家族の参加も呼びかけている。	日々の散歩は入居者2名ほどに職員が付き添っている。車の通らない道を選んで、車いすの方と歩行できる方が一緒に出かけ、季節を感じたり、地域の人との出会いを楽しんでいる。本人希望の買い物や行事食の買い出しに出かけたり、外食レクレーションに出かけることもある。初詣や地域の秋祭り、瀬戸蔵での雛祭りなど、季節の行事に出かけている。花見は家族の参加協力を得ている。入居者の高齢化に伴ない日常的な外出支援が困難になっている。	市役所への更hands続きや買い物等で、職員が出かける時などの機会をとらえて、入居者を同行する等の工夫で、外出の機会を増やす試みを行うことを期待する。

自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容		
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から金銭をお預かりし管理している。買い物や外食を行い支払いが出来る方にはスタッフが見守りながらご本人に支払いをして頂く様、援助している。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人、家族の希望があれば携帯電話を持ち込み使用頂いている。また家族、友人への手紙を送る支援を行っている。		
52 (19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	遮光カーテンを設置し直射日光を遮る。冷暖房で温度調節、加湿器を設置し湿度の調節を行っている。ホールにはレクリエーションで作成した貼り絵や書道の作品や散歩時に摘んできた花等を飾り季節感を感じれるよう心掛けている。	台所からは居間全体が見渡せ、入居者の動きや気配が一目でわかるようになっている。光や温度、湿度、音などに気を配り、快適な環境が保たれている。夕方の清掃は入居者も一緒に行っている。入居者と職員で作成した季節を感じる作品や、趣味や特技を生かした作品が飾られている。歌を歌ったり、ぬり絵や貼り絵、体を動かしたりする場として楽しく安全に、居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で一人になる以外は共有空間としてのホールでは特に制限は設けず利用者様の意思で自由に過ごせる場所となるよう配慮している。		
54 (20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使用しやすい様には配慮している。馴染みの家具を置かれている方も見えます。ただし、地震対策のため高さは制限させて頂いています。また熱中症予防の一つとして全居室にエアコンを設置し夏、冬とも快適に過ごしていただけるよう環境を整えました。	本人が使いやすく落ち着けるように、使い慣れた小物や写真を持ち込んでいる。地震時の安全性を考慮し、各居室にローチェストが設置されているが、物入れと共に家族や友人が訪問した時の椅子ともなり、訪問者が落ち着いて過ごせる工夫をしている。夜間のポータブルトイレ使用者の居室は消臭や換気等をこまめに行い清潔にも配慮して快適に過ごせるよう支援している。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレのスペースでは手すりや肘掛けの設置、洗面台の高さを配慮して入居者の残存機能を活かせるよう工夫している。居室入口には表札を掲示し、トイレにはトイレであることを示す表示をすることで利用者様が混乱しないような工夫を行っている。		